

# 医療情報活用推進専門委員会

(令和3年度)

## 医療情報活用推進専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 医療情報活用推進専門委員会

委員長 三原 直樹

### I. はじめに

HM ネットの基盤を活用して、医療・介護分野でのDXを実現するため、令和2年度に設置した医療情報活用推進専門委員会において検討し、令和3年4月に「ひろしまメディカルDX構想」を策定した。

令和3年度から、同委員会の意見を踏まえつつ、この構想を推進するための各種取り組みを開始した。

### II. 活動内容

令和3年度は「HM ネットの救急分野への活用に係る検討」と「[広島版PHR]の構築に係る検討」を重点的に取り組んだ。

概要については、次のとおり。

1 HM ネットの救急分野への活用に係る検討  
国の「在宅医療・救急医療連携に係る調査・セミナー事業」の応募・採択を受け、広島市佐伯区及び

安佐市民病院チームをモデルに、救急搬送時の情報共有や入退院支援について関係者（行政、消防、医療機関、介護事業所、民生委員等）で協議（セミナー2回開催11月21日、12月19日）し、今後の取り組みの方向性をまとめた。このうち、HM ネットに関わる佐伯区グループワークの概要を報告する。

《佐伯区グループワークの概要》

#### (1) 背景

平成24年に開始した「命の宝箱さえき」が徐々に浸透しているが、今後、情報の電子化やACPなどの項目を追加することについて、検討している。

#### (2) メンバー

医師、薬剤師、歯科医師、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、民生委員児童委員、区役所、広島市消防局（佐伯消防署）

#### (3) 検討内容

1回目テーマ：紙版「命の宝箱さえき」が抱える課題とその解決策の検討

紙版のメリット	紙版のデメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 独居の高齢者が抱える不安を解消する役目を果たしている。</li><li>・ 家族による通報時や、救急搬送時に、整理された情報があることで、連絡が円滑に行われる。</li><li>・ 紙媒体であるため、気軽に取り組める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外出先での緊急時に活用できない。</li><li>・ 服薬情報等が更新されにくい。</li><li>・ 玄関のドアにステッカーを貼ることで、高齢者の一人暮らしであることが分かってしまう。</li><li>・ 普及対象を高齢者に限定している。</li></ul>

### 改善策：「命の宝箱」の電子化

#### 意見

- ・ 電子化に当たっては、無駄な入力を省けるようにすることが大事。
- ・ 普及対象を高齢者以外にも広げてはどうか。（障害のある方、難病患者等）
- ・ 命の宝箱にACPの記載欄を設けてはどうか。

2 回目テーマ：「命の宝箱さえき」の電子化に向けた課題の整理、ACP の追加

① 救急隊の意見（広島市消防局 佐伯消防署）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯署管内での高齢者の救急搬送は年間 3,000 件弱で、全体の半数程度。</li> <li>・「命の宝箱さえき」の利用実績は、平成 30 年の 15 回以降、減少傾向にあるが、本人や通報者から必要な情報を収集できない場合に活用している。（令和 3 年：6 回（11 月末時点））</li> <li>・外出先での急病・事故に際して、「命の宝箱」の電子化は有用であると考えている。</li> </ul>
② HM ネット（電子版「命の宝箱」）について（広島県医師会 藤川常任理事）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・HM カード保有者の PHR データは「ひろしま健康手帳」に登録され、かかりつけ医・薬剤師等が閲覧できるだけでなく、救急時には救急隊が所持するタブレットで情報を参照し、搬送に役立てることができる。</li> <li>・HM ネット加入薬局で調剤されたお薬情報は自動で更新されるため、その都度情報を書きかえたりする必要が無い。</li> <li>・HM カード発行の中核を担っている薬局を中心に、地域ぐるみで普及していく必要がある。</li> </ul>
③ 電子化に向けた課題整理
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ等の扱いに慣れていない高齢者への対応が課題。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→紙に書いて写真をアップロードしたり、薬局等での代行入力も可能。</li> </ul> </li> <li>・かかりつけ医、薬局からの働きかけが大切。また、かかりつけ薬局で HM カードを発行できる環境整備も必要。</li> <li>・もれなく医療機関・薬局が協力しないと、抜けの多いデータになる可能性がある。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→医療機関、薬局の加入促進が必要。未加入の医療機関、薬局に対し、HM ネットの機能をより分かりやすく広めていくことが求められる。</li> </ul> </li> </ul>
④ ACP 記載欄の追加について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の宝箱」をきっかけに、ACP の普及啓発や理解促進の機会となるのではないかな。</li> <li>・本人の気持ちは状況によって変わっていく。また、本人の意思と家族の希望が一致しない場合もある。</li> <li>・看取りに関する本人の意思を尊重するという意味では、施設に入居している人に普及させていくのが良いのではないかな。</li> <li>・ACP を記入した紙を撮影して、電子版「命の宝箱」と併せてアップロードすることは可能。（更新については、注意を払う必要がある。）</li> </ul> <p>⇒「命の宝箱さえき」の項目として追加することについては、慎重な議論を要する。</p>

(4) 今後の方針

① 佐伯区

- ・セミナーで議論した内容を区の地対協に情報提供するとともに、地対協において、引き続き、「命の宝箱さえき」の電子化に向けた取組を進めていく。

② 県

- ・今回のテーマに関連する地対協の委員会において、セミナーで議論した内容を報告する。
- ・佐伯区の取組を随時フォローアップするとともに、他地域への展開に向けた検討を行う。

2 「広島版 PHR」の構築に係る検討

国が進めるデータヘルス改革との連携、HM ネット

の基盤を活かした広島県版 PHR の構築の方向性などについて、関係者（行政、医療機関、健診機関、保険者等）による意見交換会（9 月 1 日）を開催し、それぞれの立場から、意見交換を行った。その後、書面による意見集約等を経て、現在の国の動き等も踏まえた「広島県版 PHR の構築に向けた工程（案）」を整理した。

(1) 意見交換会の概要

①委員構成（医療情報活用推進専門委員会の委員が中心）

広島県薬剤師会、広島県医師会、呉市医師会、地域保健医療推進機構、広島大学、全国健康保険協会広島支部、呉市、広島県

## ②日時

令和3年9月1日（水）18：00～19：30

## ③場所

Web 会議

〔各委員からの主な意見〕

- ・国のマイナポータルに蓄積される情報と県の進める情報収集のデータ連携ができるとよい。
- ・健診情報や検査センターに委託した検査情報が見ることができれば有用である。
- ・データ活用が、多剤、重複検査の未然防止にもつながり有用である。
- ・蓄積データが一部でなく関係者に幅広く利用可能となり、統計、研究、分析に活用できるとよい。

## (2)「広島県版 PHR」の構築に向けた工程（案）の概要

### ①データ収集の方向性

- ・医療・健康情報を核に、介護情報も含め、医療・介護現場に必要な情報を収集し、共有する。
- ・DX 構想においては、集積された医療・健康情報が、医療の高度化、治療研究等にも活用されるなど高度利用され、その便益が県民や関係者に還元される仕組みの構築を目指している。県民の活用とデータ収集は両輪であることから、県民が閲覧できる健康情報等の充実と個人のデータ収集の窓口ともなりうる広島県版 PHR の充実を進める。
- ・国のデータヘルス改革に関する工程表によれば、順次マイナポータルによる医療・健康情報の閲覧が可能となる予定であり、それらの情報については、今後マイナポータルと相互に連携し、情報を取り込めるよう検討を行う。なお、現時点で国において具体的な手法等が示されておらず、スケジュールどおりの実現

性が明確でない反面、有用性が高く早期の収集メリットが大きいものは、国との情報交換や県手法の提案等も図りながら、県が先行して収集する。

- ・HM ネットには、既に基幹病院の診療情報・画像情報の集積があるほか、遠隔診療等の地域医療支援や市町・保険者との連携及び介護情報の収集等も目指しており、医療・介護情報等を一通貫して活用することにより、県民の医療・健康の向上を後押しする。

## ②課題への対応

### 《マイナンバーカードとの連携》

マイナンバーカードの空き領域を利用して、HM カードとして利用できる仕組みが実現できるか、情報収集・協議・調整を開始した。実現すると、次のようなメリットがある。

- ・オンラインで本人確認ができ、カードの受け取りの必要がない。
- ・健康保険証と HM カードの機能を1枚のカードで利用可能（マイナンバーカードの健康保険証利用が令和3年10月から開始）。

### 《HM カードへの切り替え》

開示カードでの開示を行っている開示病院に対して、HM カードへの転換を呼びかけており、順次転換を進めている（令和3年度中に2病院転換予定）。

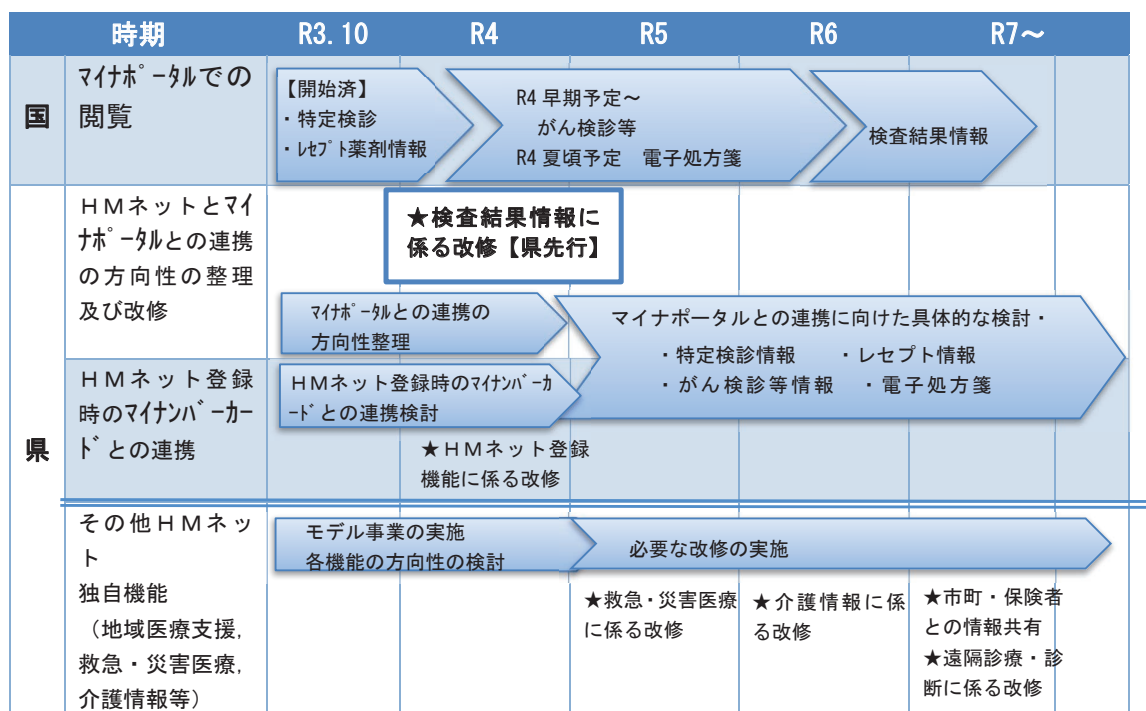
### 《構想の推進体制》

構想の推進体制について、体制強化の必要性等を含め、関係者と協議するなど検討を行っていく。

## ③集積されたデータの利活用

医療・健康情報の集積を図りながら、今後、集積したデータの活用の具体的な検討を始める。

④当面の工程案



集積されたデータの活用

3 医療情報活用推進専門委員会 会議

(1) 日時

令和4年3月30日(水) 19:00～20:20

(2) 場所

Web 会議

(3) 議題

- ・令和3年度の取組について
- ・令和4年度に重点的に取り組む項目
- ・HMネットの最新状況について

(4) 検討状況

「HMネットの救急分野への活用に係る検討」や「広島版PHR」の構築に係る検討を中心とした令和3年度の取組の報告や、HMネットの最新状況についての紹介を行った。また、令和4年度に重点的に取り組む項目については、令和3年度に引き続き取り組む前述の2テーマと、新たに取り組む「遠隔診療・診断への活用に係る検討」、「肺がん検診・遠隔読影への活用に係る検討」及び「DX構想のデータ利活用に向けた検討」の3テーマの計5テーマについて重点的に取り組むこととし、具体的に取組を進めるためのワーキングを設置すること等について、委員からの了承を得た。

〔各委員からの主な意見〕

- ・広島県版PHRの構築を進めることにより、オンライン資格確認も連携できるようになれば、有用性が高くなるのではないかと。
- ・遠隔診療については、中山間地域における小児医療を取り上げているが、モデル事業が円滑に進めば、今後の医療需要や専門医の不足に対応できるのではないかと。
- ・開示カードからHMカードの切り替えについて、当初のセキュリティポリシーで妥当か改めて、県医師会でセキュリティポリシーを作りたい。
- ・国のデータヘルズ改革の動向を注視しつつシステム等の連携を図りながら、関係団体の参加を促し、県民がメリットを共有できるようなシステム作りを願っている。

Ⅲ. ま と め

デジタルトランスフォーメーション (Digital transformation, DX) とは、「IT (Information Technology) の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という仮説である。2004年にスウェーデンのウメオ大学教授、エリック・ストルターマンが提唱したとされる。ビジネス用語としては定義・

解釈が多義的ではあるものの、おおむね「企業がテクノロジー（IT）を利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させる」というIT化といった意味合いで用いられる（Wikipediaより抜粋）。また、時には既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーション（改革）をもたらすことも必要であると述べられている。

これ以降、医療・介護分野におけるDXが話題となりだしてから久しいが、この分野におけるDXとして最も重要なことは、医療・介護分野において、どのような課題があるのかを把握し、それらの課題をどのようにすればデジタル（D）でより良いものへトランスフォーメーション（X）できるのか、それぞれの現場のユースケースに応じて一つずつ検討し、着実にソリューションを実装していくことである。

佐伯区における「命の宝箱さえき」の取り組みは、まさに明確な課題設定を行い、地域全体がこの課題をDXにより解決していこうとする非常に素晴らしいユースケースである。広島県としても、全域におけるこのような具体的な課題を一つずつ把握し、DXによりどのように最適化していくのかといった取り組みを継続的に支援していく必要がある。またこのような部分最適の取り組みを積み上げていく中で、医師会や広島県、各関係者が協力して全体最適化に継続的に取り組んでいく必要がある。

さらにオンライン資格確認、マイナポータルを中心とした認証システム、PHR等の国の施策も見据えつつ、「ひろしまメディカルDX構想」実現に向けて、今後も積極的な活動を継続していくことが重要である。

広島県地域保健対策協議会 医療情報活用推進専門委員会

委員長 三原 直樹 広島大学病院医療情報部  
委員 粟井 和夫 広島大学医学部  
板本 敏行 県立広島病院  
今井真由美 広島県健康福祉局医療介護計画課  
大田 泰正 広島県病院協会  
加藤 誓 医療法人社団加藤会高陽中央病院  
喜岡 幸央 福山市民病院  
熊谷 隆良 全国健康保険協会広島支部  
郷力 和明 広島県訪問看護ステーション協議会  
小山 祐介 福山市民病院  
先本 秀人 地域医療支援病院呉市医師会病院  
新本 康司 呉市保健福祉課  
田妻 進 JA尾道総合病院  
津田 敏孝 津田医院  
寺坂 薫 呉共済病院  
堂面 政俊 堂面医院  
遠山 郁也 広島市医療政策課  
豊見 敦 広島県薬剤師会  
永澤 昌 市立三次中央病院  
中田 徹 広島市消防局  
中西 敏夫 広島県医師会  
秀 道広 広島市立広島市民病院  
藤川 光一 広島県医師会  
古川 善也 広島赤十字・原爆病院  
堀川 亮 三次市副市長  
松原 昭郎 JA広島総合病院  
溝上 慶子 広島県看護協会  
道下 克典 広島県後期高齢者医療広域連合  
宮本 浩二 日本医業経営コンサルタント協会  
望月マリ子 広島県介護支援専門員協会  
森本 徳明 広島県歯科医師会  
山口 まみ 広島県健康福祉局業務課  
勇木 清 東広島医療センター  
和田 圭司 福山市保健所